「持続可能な開発のための水」国際行動の10年に関する
第2回ハイレベル国際会議全体会合におけるステートメント

（冒頭）

ラスルゾーダ首相、
各国・機関の代表者各位、
ご参加の皆様、

●水に関するこの重要な会議において、日本政府を代表して一言申し上げることを喜ばしく思います。
●はじめに、国際社会における水をめぐる諸課題の解決に積極的に取り組んでこられたタジキスタンのイニシアティブに敬意を表します。

（SDGsにおける水の位置付け）

●水は生命の根幹であり、安全な飲料水の供給は、人間の安全保障の観点から極めて重要です。また、水は、食料、保健、教育、ジェンダー、エネルギーなど、全ての SDG のゴール達成に寄与する重要な要素です。
●さらには、気候変動の影響により、激甚化・頻発化する水害や渇水などに対する防災が急務となっています。

（「第 4 回アジア・太平洋水サミット」と「熊本水イニシアティブ」）

●本年 4 月、日本は「第 4 回アジア・太平洋水サミット」をホストしました。サミットには、18 カ国の首脳、実務家、研究者、市民社会や民間の代表者を含め、30 カ国から約 5,500 名が参加し、水に関する様々な課題が議論され、幅広い視野から意見が交わされました。
●域内各国の首脳は、気候変動による災害の連鎖、新型コロナ感染症の被害に対処するための水分野の役割を再認識しつつ、強靭性・持続可能性・包摂性を兼ね備えた質の高い社会への変革を目指す決意を表明し、取組の加速に向けて「ガバナンス向上」「資金ギャップを埋める」「科学技術イノベーション」を訴える「熊本宣言」を採択しました。

●同サミットにおいて、岸田総理からは、途上国への今後 5 年間で約 5 千億円の支援の実施などをはじめとする「熊本水イニシアティブ」を発表しました。
●このイニシアティブの下、官民の共同により、デジタル化やイノベーションを活用し、ダムや下水道等のインフラ整備により、洪水軽減と温室効果ガスの削減を両立すること、また、水供給や衛生施設などの改善を推進することとしています。

●日本はいにしえから、台風や渇水といった災害に見舞われ、治水・灌漑に連綿と取り組んできました。また、経済発展や都市化の過程で水資源管理や水質汚濁防止などにも対応してきました。
●日本は、水分野におけるトップドナーとして、ガバナンス面、資金面及び科学技術面から、質の高いインフラ整備の実現に向けて、これまでの経験を通じて培ってきた豊富な知見や技術を各国と共有していきます。

（2023 年 3 月の国連水会議に向けて）
●今回のハイレベル会議は、日本でのアジア・太平洋水サミットと同様に、来年 3 月の国連水会合に向けた重要な取組として位置付けられています。
●この会議で、参加者により実りある議論が行われ、水関連の SDGs達成に向けた機運が一層高まることを祈念します。

ありがとうございました。